

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	いきいきリハビリ事業				財務会計上の位置付け	会計	5	款	5	項	2	目	150	細々目	20	19予算額(千円)	9,231	
部等名	保健福祉部	課等名	保健課		包含する細々目													
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり																	
施策	35 高齢者福祉の推進																	
実施区分	継続	会計	介護保険	環境調整会議	不要	関連計画 条例等	健康いいた21 高齢者保健福祉計画											
		事業期間	6	年度～	年度													

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	70歳以上の高齢者	70歳以上高齢者人口 (介護保険認定者を除く)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			16302			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	老化や閉じこもりによる心身機能の低下(老年症候群)を防ぎ、健康寿命の延伸を図る。	対象者の中でいきいきリハビリ事業に参加している高齢者の割合 %	18目標	12.5	最終目標	15
			18実績	12	19目標	12.5
			23目標		23実績	
	いきいきリハビリ参加者のなかで、基本チェックリスト(生活機能評価)の点数が維持または改善した人の割合 % 18年度と19年度チェックリストを比較する	18目標	70	最終目標		
		18実績	19年度末に	19目標	70	最終目標達成年度
23目標			23実績			

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	家に閉じこもりがちなど暮らし等の高齢者に対し、軽い運動や趣味活動等を提供して、要介護状態になることを予防する事業。集会所・公民館等で月1～4回実施。高齢者の活躍の場ともなり社会との交流の場にもなっている。同時に保健推進員・社協委員などの協力により支えあう地域づくりの一端を担うことをめざしている。	いきいき教室参加者に基本チェックリストに基づいた介護予防健診をおこない、地域支援事業(介護予防事業)を実施する。担当看護師による運動指導の充実や口腔ケア・低栄養予防に関する指導を19年度までに全会場に拡大する。運動指導としては、ずくバンドを使用した筋力アップ運動に取り組み転倒予防を推進する。	参加者数 人 教室開催数 回	1961人 1787回
	18年度の実績			
	19年度計画	運動指導、口腔ケア、低栄養予防に関する指導に重点を置き内容の充実を図る。自立した生活の助長をめざす内容にすることにより、介護保険の申請年齢の延伸を図る。	参加者数 教室開催数	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		3,767
	県支出金		1,884
	起債		
	その他	9,775	3,652
一般財源			
事業費計(A)	9,775	9,303	
人件費	正規職員所要時間	18年度 4,050	19年度 4,050
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	14,483	14,483
	トータルコストA+B	24,258	23,786

特定財源内訳や補足事項	介護保険会計による地域支援事業のなかの介護予防事業
-------------	---------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	高齢者が安心して生き生き暮らせる。	要介護・要支援認定者の割合 %	現状値	18.4	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	20.3
	いきいき暮らせている高齢者の割合 %		現状値	68.7	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	70	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
高齢化にともない認知症問題がクローズアップされ、その予防として閉じこもり防止・脳の活性化が検討された。その対策として、高齢者が近くで気軽に参加でき、なおかつ簡単な手作業・体操をおこなう場としてこの事業が平成6年度に始まった。(老人保健法 B型リハビリ)	介護予防としての生きがいサービスや社協のふれあいサロン等類似事業が実施されるようになり対象者や実施内容が重なる部分が生じてきたが、参加できる機会が多いほど介護予防に結びつくので効果があると思われる。また、近年介護保険認定率の増加により介護予防の重要性が全国的に高まっている。改正介護保険制度により介護予防・地域支え合い事業は廃止されるために18年度よりこの事業は、一般高齢者を対象にした地域支援事業となった。	市民からは、もっと会場を増やしてほしいとの声があり、参加者からは外出の機会が増え気持ちが前向きになった、家族との話題が増えた等の感想が聞かれる。教室運営に関して参加者からは自主運営していくこと(自主化)は困るとの声も聞かれる。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) <input type="checkbox"/> 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) <input type="checkbox"/> 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	従来よりさらに介護予防に重点をおいた指導内容を検討してきた。平成19年度より毎回教室の中で担当看護師による運動指導を実施し運動の必要性についての意識づけや習慣化を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	この事業は一般高齢者を対象にした介護保険地域支援事業として実施しているが、介護予防事業としても位置づけて取り組む。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	